

石川県地域課題ゼミナール活動：能登町宮地地区キリコ祭り継承プロジェクト

団体名●神崎ゼミナール2年、3年、4年生、有志
代表者名●神崎淳子（経済学部地域システム学科・教授）

はじめに(背景・目的・目標)

本活動は、石川県鳳珠郡能登町宮地地区において実施されたキリコ祭りの継承支援を目的とした地域課題ゼミナール活動である。宮地地区は自然豊かな地域であり、地域交流宿泊所「こぶし」や春蘭の里を有する地区である。

本活動の目的は、地域の伝統文化を次世代へ継承することである。また、住民の参画機会を創出し、地域交流を促進することにより、宮地地区の持続的な地域活性化に寄与することを目標としたものである。学生が単なる参加者ではなく、地域と外部をつなぐ存在として機能することも目標の一つであった。

活動内容

本活動は、2025年6月から2026年1月にかけて計5回の主要活動を実施した。

第一に、6月6日にフィールドワークおよび現地調査を実施した。現地での聞き取りや環境確認を通して、祭りの運営体制や地域の現状を把握した。

第二に、7月15日に担当者とのオンラインミーティングを行い、祭り実施に向けた役割分担や準備内容について協議した。

第三に、9月1日に現地打ち合わせを行い、祭り当日の動線や準備物の確認を行った。

第四に、9月19日(金)・20日(土)に宮地地区においてキリコ祭りおよび秋祭りに参加した。祭り当日は、キリコの組立、運行、片付けを学生が地域住民と共に担当した。また、屋台では能登の食材を活かした飲食物の提供、縁日では輪投げや射的を実施し、子どもから高齢者まで幅広い世代が参加できる場を設けた。参加者は80～100人であった。

第五に、1月28日に大学ホームページに活動内容を掲載し、取り組みの成果を学内外に発信した。

学生は準備段階から運営まで一貫して関与し、実践的な役割を担った。

成果、結果の考察

本活動の第一の成果は、担い手不足の中でキリコ祭りを実施できたことである。学生が地域住民と共に準備・運行を担当したことで、祭りの継続と運営体制の維持に寄与した。学生は地域と外部をつなぐ「つなぎ役」として機能し、地域内外の協働を促進する存在となった。第二の成果は、屋台や縁日の実施によって新たな交流の場を創出できたことである。世代や立場を超えた会話が生まれ、賑わいと活気のある空間が形成された。単なる伝統行事の維持にとどまらず、地域の社会的結束を再確認する機会となった。第三に、地域からの評価として「今年も祭りを開催できてよかった」「住民と学生の交流が深まった」との声が寄せられた。一方で、重いキリコを担ぐことが住民にとって身体的・精神的負担となっている可能性や、より深い対話の場の必要性も指摘された。これらは今後の改善点を示す重要な示唆である。

成果、結果の考察

本活動は、能登町宮地地区におけるキリコ祭りの継承を目的とし、学生が地域住民と協働しながら祭りの準備・運営を担った取り組みである。担い手不足という課題の中で祭りを実施し、屋台や縁日を通じて新たな交流の場を創出したことは大きな成果である。

一方で、継続的な関係構築や住民主体の体制づくりなどの課題も明らかとなった。今後は、地域の粘り強さと深い想いを受け止めながら、地域とともにキリコ祭りのより良いあり方を検討し続けることが求められる。